

# 植物防疫情報第2号

平成21年5月8日  
岡山県病害虫防除所  
岡山県植物防疫協会

## 岡山県南部を中心とした水稲のヒメトビウンカの防除の徹底について

近年、県南部においてヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病が散見されます。

岡山県病害虫防除所による県予察圃場（赤磐市）でのヒメトビウンカのすくい取り調査では、4月の越冬世代成幼虫の発生量は145頭と平成15年(133頭)並でしたが、イネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は6.5%であり、平成15年までの過去10年間（平成16～20年は欠測）の平均保毒虫率1.1%と比較してやや高くなっています。

広島地方气象台による5月1日発表の1か月予報では、向こう1か月の気温は平年より高く、ヒメトビウンカの増殖に好適な条件になると考えられますので、防除に万全を期してください。

### 1 防除対策

(1)イミダクロプリド剤（アドマイヤー箱粒剤など）、フィプロニル剤（プリンス粒剤など）などウンカ類に効果のある成分を含む殺虫剤を施用する。

なお、栽培方法（移植、乾田直播栽培など）に応じて、使用時期及び使用方法など農薬使用基準をよく確認して施用する。

(2)ヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、麦類栽培圃場、雑草地近くなどでの育苗を避ける。

### 2 防除上の参考事項

(1)フィプロニル剤は魚毒性が強いため、施用時は飛散しないように注意する。

(2)今後の発生情報に留意し、必要に応じて本田防除を行う。

(3)農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、人畜・水産動物への危害防止に努め、周辺農作物への飛散防止対策をとる。最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/>）で確認できる。